



徳川家臣団の子孫たちが全国から参集！ 平成の「徳川家臣団大会」in 駿府を開催

世界史上類を見ない265年にも及ぶ平和の礎を築いた徳川家康公が薨去されてから四百年。「家康公の愛したまち 静岡」において、江戸時代の徳川家を十五代にわたり支え続けた旧幕臣の子孫らが一堂に集まり、戦いのない社会を築いた神君・徳川家康公を称える「平成の徳川家臣団大会2015 in 駿府」を開催しました(主催：徳川家康公顕彰四百年記念事業 静岡部会事業実施本部／共催：静岡商工会議所・静岡市・徳川みらい学会・日本経済新聞社・静岡放送)。

4月16日には、本大会のほか昼と夜の部の三部構成で、また翌日の4月17日には徳川家康公の命日に合わせた家康公「お墓参りツアー」を実施しました。

当大会は全国から徳川家臣団の子孫の方々が集まるほか、多くの歴史ファンも詰めかけ、大変な盛り上がりを見せました。

交流会「昼の部」

本大会を前にグランシップ芝生広場で昼の部の交流会を行いました。200名を超える参加者は、当所で実施した「家康公が築いたブランドを取戻す『余ハ此處ニ居ル』プロジェクト」にて開発したお弁当、日本茶インストラクターが淹れた静岡茶とお菓子を味わいながら、東嘉会の木遣りや清水芸妓による踊りを楽しみました。



・東嘉会による静岡木遣りの披露

本大会

グランシップ中ホールで開催し

本大会は、徳川みらい学会第一回講演会との併催で、約1,200名が参加し、会場は満員となりました。

冒頭、大正4年に開催された家康公顕彰三百年祭および昭和40年に開催された三百五十年祭のスライドを上映後、田辺市長、後藤会頭が歓迎の挨拶を行いました。

続いて、来賓として山形藩・水野家第十六代当主 水野忠俊様、



・大名の子孫ご紹介



・徳川みらい学会
芳賀会長の基調講演

壬生藩・鳥居家宗家第十六代当主 鳥居忠明様、忍藩・第十六代当主 松平忠昌様にご登壇いただき、紹介いたしました。また、徳川家臣団の子孫たちで組織されている6団体「柳営会」、「牧之原開拓幕臣子孫の会」、「開洋丸子孫の会」、「万延元年遣米使節子孫の会」、「咸臨丸子孫の会」、「鳥居会」から参加された約130名の子孫の方々を紹介しました。

また、徳川宗家第十八代当主徳川恒孝氏は、「全国から徳川家にゆかりがある多くの人が集まりうれしく思う」と挨拶されました。

基調講演では、徳川みらい学会会長、静岡県立美術館館長の芳賀会長の基調講演



賀徹氏に、「徳川から明治日本へ」その連続、飛躍としての岩倉使節団」というテーマで講演いただきました。

「明治新政府によって欧米に派遣された岩倉使節団には多くの旧幕臣が名を連ねており、日本の近代化で重要な役割を果たした」と語りました。

パネルディスカッションでは、「歴史読本」編集長の石井久恵氏をコーディネーターに、3名のパネリストが、「家康公を支えた家臣たち」をテーマにトークセッションを行いました。

〈コーディネーター〉



「歴史読本」編集長
石井 久恵氏

〈パネリスト〉



静岡市出身の歴史小説家
植松 三十里氏



静岡市育ちの講談師
田辺 鶴遊氏



作家、古武術研究家
多田 容子氏

いました。まず、静岡市出身の講談師の田辺鶴遊氏が、「講談入門者は最初に『三方原軍記』を覚えることから、徳川家と関わりが深い」と述べ、実際に講談を披露。

同じく静岡市出身の歴史小説家の植松三十里氏は「家康公は身内に厳しく、家臣を大事にしたことから、家臣団は結束して太平の世作りに尽力した」と話しました。

次いで、作家、古武術研究家の多田容子氏は「徳川家の剣術指南役は柳生一族であり、『殺さないう剣』を標榜したところからも平和への想いがうかがえる」と述べ、実際に柳生新陰流の実演が披露されました。



・「家康公を支えた家臣たち」について話すパネリストたち

交流会「夜の部」

本大会終了後の夜の交流会は、浮月楼で開催しました。家臣団の子孫ほか200名を超える参加者は、静岡産の食材等を使った料理を堪能しながら、徳川家臣団の功績について和やかに懇談しました。また、最後には、庭園にて慶喜公も楽しんだと言われる打上げ花火を再現し、大会を彩りました。



・家臣団の功績について和やかに懇談しました。

お墓参りツアー

翌日、4月17日の徳川家康公の命日には、観光ボランティアガイ

ド「駿府ウェイブ」のガイドにより、22名の参加者でお墓参りツアーを実施しました。駿府城公園「東御門」、「巽櫓」、世界文化遺産の構成資産「三保松原」の見学の後、今回のツアーの目的である久能山東照宮では、家康公が今も眠る「神廟」を参拝しました。



・今も家康公が眠る「神廟」前でガイドから説明を受ける参加者

昨年のプレ大会に引き続き、四百年を迎えた今大会も全国から多数の家臣の子孫や歴史ファンが集まり、大変な盛り上がりを見せるなど、家康公の功績を全国に発信することができました。

(文責：経営支援課)